

第 16 回日本薬局学会学術総会

ポスター発表

薬物動態学的に大きな影響を及ぼす併用注意薬剤の安全使用を目的とした取り組み

総合メディカル・ファーマシー中部(株)ナツメ薬局 桜山店

山野 真也

【目的】添付文書において、併用注意に区分されるもののなかには、レパグリニドとクロピドグレルの相互作用の様に、血中濃度に大きく影響を与えて遷延性低血糖を引き起こすリスクの高いものや、金属イオンの様に吸収量が大きく低下する組み合わせ等が存在し、薬剤師として減薬や併用を避けるよう積極的な処方提案が求められる。そこで、薬物動態学的に影響が大きい薬の併用注意について、処方監査を支援し、処方提案等に有用な情報を記載した対応手順を作成した。今回は、運用開始後の対応状況について調査したので報告する。

【方法】「医薬品開発と適正な情報提供のための薬物相互作用ガイドライン」を参考に、薬物動態学的に血中濃度への影響が大きい併用注意 25 種類について、それぞれの処方提案・患者指導の対応手順を作成し、近隣 4 薬局にて 2020 年 3 月 1 日から 6 月 12 日の期間に処方監査で使用した。その結果として疑義照会で処方変更などに至った数や対応事例について調査した。

【結果】期間中に該当の併用注意は 89 件あり、そのうち安全性に問題があり、処方変更を提案したのは 8 件、うち 6 件が処方変更となった。服用時間をずらすように患者指導したのは 7 件、残り 79 件は電話によるフォローアップにて副作用等を経過確認した。また、レパグリニドとクロピドグレル併用は 2 件見られ、うち 1 件は低血糖と思われる症状が確認されたため、医師に報告してレパグリニド中止となった。

【考察】今回の取り組みにより、見逃されがちであったリスクの高い併用注意による副作用の増悪防止に貢献することができた。また、既に併用期間が長く、副作用かどうかの評価が難しい事例を経験したことから、特にリスクの高い高齢者の併用については、初回投与の時点から経過をフォローアップすることが重要であると考察した。